2014年（平成26年）
第79号
（7月1日）

平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211
FAX (075)762-2266

佐藤教会長　かめおかこころ塾で講演

「柔らかなこころ、豊かなこころ」をテーマに

６月１４日、ガレリアかめおか（京都・亀岡市）に於いて「かめおかこころ塾」（亀岡市民新聞社主催、かめおか宗教懇話会共催）が開催されました。今回の講師には、立正佼成会京都教会長の佐藤益弘が担当し、「柔らかなこころ、豊かなこころ」をテーマに講演を行いました。

佐藤教会長は入職するきっかけをはじめ、法華経に照らした日常生活でのものの見方・受け止め方を分かりやすく説明しました。事例として、会員の相談を受けて、視点を変えることに気づけいてもらえたことを紹介しました。

そして、数珠が切れことに対すること受け止め方の質疑応答を通して、悪いことが起こったとしても、その受取り方が大切で、これを繰り返して「柔らかなこころ　豊かなこころ」を身につけていくことが、幸せになる秘訣だと述べました。

結びに、八幡宮社宮司の宮内寛氏が感想を述べられました。

講師に立つ佐藤教会長

ガレリアかめおかにて

■かめおか宗教懇話会について

かめおか宗教懇話会は、平成８年９月に京都府亀岡市で発足しました。

世界の厳しい状況下で、民族・国家・宗教などの対立や紛争を越えて、対話交流によって人類の進むべき道を歩もうと、足元の実践を心がけるべく取り組んできました。

定期的に開催される「かめおかこころ塾」を中心に、大本本部の支援を受けて、地元の宗教者の交流と相互理解が深められている。

祇園祭を陰で支えるボランティアに参加

７月の京都といえば「祇園祭」です。今年から後祭（あとまつり、７月２４日）の山鉾巡行が復活し、これまで以上のにぎわいを創り出しそうです。

立正佼成会青年部と新宗連京都府協議会青年会は祇園祭の「鉾引きボランティア」に毎年参加しており、今年は前祭（さきまつり、７月１７日）の岩戸山（最後から二番目）を担当することになりました。

（詳細は次号に紹介予定）

京都明るい社会づくり運動の会（明社）は「美しい祇園祭をつくる会」に加盟しており、毎年、祇園祭の宵山・宵々山にごみ分別回収ボランティアに会員が数多く参加しています。

かつて、宵山・宵々山には道端へのゴミの投棄がひどかったため、美しい祇園祭にしようと取り組んできました。

明社では、今年は15日と 16 日に参加する予定です。

時々刻々

祇園祭の山鉾巡行が今年から前祭（さきまつり）と後祭（あとまつり）の二日間に分けて開催されます。昭和四十一年に交通渋滞の緩和などを理由に一本化されてから四十八年ぶりに本来の姿にもどったことになります▼これについては相当の議論があったようです。祇園祭を神事として大切に扱うか、経済活動や便利さを優先させるかがポイントのようです▼日本人はこの数十年間、豊かで便利な生活を求めて経済成長を最優先に取り組んできました。しかし、その結果失ったものも少なくないでしょう▼琵琶湖環境研究センターの内藤センター長は「環境問題を議論するのに、クーラーががんがん効いている部屋にいるのはいかがなものか」と述べておられました▼伝統を大切にしようとする心がけも、環境問題を考えることも近いものがあると感じたのは筆者だけでしょうか。

今月のことば　～「いま　すぐ」～

文書布教担当　石田　悦子

今回の「今月のことば」の担当は、文書布教担当の石田です。7 月 1 日付けで、同職を後任にバトンタッチすることになり、このお役も今回が最初で最後になってしまいました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

佼成会には中学生の頃から大分教会に足を運んでいましたが、20 年前に京都に移ってきてから本格的な修行が始まりました。支部文書布教担当、主任、教会教務員、そして昨年から文書布教担当責任者をさせて頂いています。

主任のお役をいただく少し前から、思春期を迎えた我が子のことで大きな悩みを抱えていました。子供のことが心配で、片時も目が離せないほどの日々が続いていました。

ところが、お役をさせていただくことになり、先輩方から導かれ、法華経を学び、実践し、多くの会員とふれあうことで、自分自身の心のあり方を見つめる機会を頂きました。

いつのまにか、あれだけ心配でしていた子供のことも、すっかり気にならなくなり、この子がいたおかげさまで、私を成長させて頂いたのだと思えるようになっていました。

今月の会長先生のご法話**「いま、すぐ」**を読ませて頂き**「きょうという一日をていねいに暮らし、日々積み重ねていくこと」**が大事だと学ばせて頂きました。そして「**いま、この瞬間を大事にして生きる**」ように心がけようと思いました。

まさに、子供のことで悩んでいた私が、その悩みから解放されるようになったのは、子供とのふれあう一瞬一瞬を大事にし、言葉や態度といった表面だけでなく、心の奥を見ていくように努力したからだと、『今月のことば』を通して、あらためて思い出しました。

サンガのみなさんから教えて頂いたことを、信じて実践し、それを毎日積み重ねていったことで、今があり、そして未来につながっていることを、確信することができました。

また、会員さんとふれあう時に、いろんなことが思い浮かびます。今日はいい出会いがありそうだと感じたり、うれしいことが起きそうな予感が浮かんだりするのです。そして、そのふれあいが私自身の喜びになっていました。

人と出会い、ふれあうことで、様々なことを教えて頂きます。そのことで、自分を見つめることができ、成長につながっているんだと思っています。とても有り難いご縁です。

ご法話の後半に「**『いま、すぐ』に実行すること**」が書かれています。「**決断したり、思い立ったとき、すぐに行動することは、縁にしたがって実践することで、真理にかなった生き方**」と教えて頂いています。

私にとっての「いま、すぐ」とは、自分も大事に、回りの人も大事にしていく行動ではないかと思います。また、行動したからといって、すぐに結果が出ないからといって、決めたことをあきらめてしまうのでなく、ゆったりとした気持ちで、チャンスが来るまで待てる余裕を持ちたいと思っています。

文書担当のお役を頂いたおかげさまで、このような気持ちにならせて頂けたと思います。本当に有り難いことです。1 年強のお役でしたが、機関紙誌をお届けすることで、多くの方と楽しい出会いがありました。文書の奥にある教えや心を学び、お伝えさせて頂くことの大切さに気づかせて頂きました。

こんな私に「いま、すぐ」は、後任の方にたすきを手渡し、お役の喜びをともにできるようにお伝えすることだと思っています。

ありがとうございました。

合掌

京都から東京へ　651 枚の毛布を発送

６月１日に、アフリカへおくる毛布の発送式が行われ、翌２日に東京に向けて送付されました。これでキャンペーンは終了しました。

今年のアフリカへ毛布をおくる運動では、651 枚の毛布が集まりました。その一枚一枚に日本からの心をおくる『メッセージ』が縫い付けてられていました。

法座席に積み上げられた毛布

一枚一枚にまごころのメッセージ

琵琶湖の水質研究から環境問題を学ぶ　～新宗連・京都　環境問題学習会～

６月９日、新宗連京都府協議会では毎年実施している地球環境学習会を開催しました。今回は加盟教団から20名が参加し、琵琶湖環境科学センターと水のめぐみ館・アクア琵琶を訪ねました。

琵琶湖環境科学センター（滋賀・大津）では、内藤正明センター長の研修を受け、環境問題の大切さを学び、琵琶湖の水質や水生生物の生態系の変化などを調査・分析されているところを見学しました。

その後、びわ湖大津館（旧琵琶湖ホテル）で昼食をとった後、水のめぐみ館・アクア琵琶（滋賀・大津）で、琵琶湖の水と人との関わりや先人たちが取り組まれた治水事業について学習しました。

内藤センター長の研修

水質調査について学ぶ

水性生物について学ぶ

琵琶湖の治水の歴史を学ぶ

■琵琶湖環境研究センター長・内藤正明氏の研修

内藤センター長の研修では、環境問題について①なぜ起こったのか、②どんなものがあるのか、③どうすれば解決できるのか、ということについて学びました。

①環境問題はなぜ起こったのか

石油などの化石燃料を大量に消費することで、便利で快適な生活を追い求めてきた。その結果として、地球環境問題を生み出した。

②環境問題にはどんなものがあるのか

まず水俣病などの産業公害が発生。この問題は、加害者と被害者が明確なので、対策が打ちやすかった。

次に排気ガス、ごみ問題などの都市公害が問題になった。これも解決に向けて取り組んできた。

そして、里山崩壊や種の減少といった自然破壊問題、さらに温暖化などの地球環境変動に広がっている。この問題は、一人ひとりが加害者であり、直接的な被害がないので、問題だと思っても対策が進まない。

③環境問題を解決するには

これから人類は今までのような西洋的世界観による、無限の資源と環境を前提とした「大量生産・消費システム」と「競争原理」を基盤とするか、東洋的世界観による、有限を前提とした「循環型・持続可能社会システム」と「共生原理」に基づくかを選択しないといけない。

仲間とふれあい　こころを磨く会員たち

こころの雑草も除く草刈り奉仕

～法輪クラブ～

梅雨入り後の６月12日、法輪クラブのメンバー23人が集まり、教会の中庭の清掃を行いました。

開始直前まで大雨だったのが、奉仕を始めるときには晴天となり、わきあいあいと楽しく草刈りができたようです。参加された方々の笑顔は最高でした。

滋賀教会と合同での学び合い

～壮年部～

6月22日、滋賀教会で京都・滋賀合同の第4回壮年部交流法座が開催されました。今回は50名が参加し、代表者2名の信仰体験の発表とグループ討議を通して、壮年の役割について学び合いました。

初参加だった京都の川崎壮年部長は、滋賀教会の方々の出迎え・受入に温かさを感じ、元は同じだった両教会の深いつながりを感じたと感想を述べていました。

55周年を機に先達の慰霊を供養

～中央支部～

6月29日、京都教会発足55周年を機に、中央支部・物故会員慰霊法要が行われました。先輩会員に感謝の真心を捧げ、今後の精進を誓い合うことを目的として行われました。

映像で故人の顔写真が披露され、懐かしい思い出が会場内を包み、心温まる慰霊法要が営まれました。

自らの「いい遺伝子のスイッチをＯＮにしよう」　議員交流会にて

６月２１日（土）と２２日（日）の２日間、本部において平成２６年次第１回議員交流会が開催されました。この会は２年に１回開催されるもので、今年は京都から２人の議員が参加しました。

１日目の開会式では、教団代表として前京都教会長の中村憲一郎総務局長があいさつをしました。「議員交流会」に寄せていただいた会長先生のおことばより、日本の特性である「寛容の心」を発揮して、国内外の諸課題に取り組んでほしいと述べ、地方議員の方々への期待を紹介しました。

次に、議員代表者による体験説法がありました。議員になった経緯と今後の取り組みについて語りました。

続いて、筑波大学名誉教授の村上和雄先生から「遺伝子ＯＮで可能性をのばす」をテーマにユーモアたっぷりの講演をいただきました。

夕方には、懇親会が行われ、各地から参加した議員が楽しく交流することができました。

翌日は、グループ別の情報交換会が行われ、今後の活動に役立つ意見交換がなされました。

こうして、２日間のプログラムを終了しました。

■村上先生の講演要旨

村上先生は、1983 年に高血圧症の黒幕である酵素「レニン」の遺伝子解読に初めて成功し世界的な注目を集めました。

今回の講演の要点を以下にまとめました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

①２%遺伝子しかスイッチが入っていない

遺伝子の研究をして分かってきたことに、ヒトは全ＤＮＡの２%しか使っていない。残り９８%の中のいい遺伝子のスイッチをＯＮにすれば、まだまだ可能性は伸びる。**ポジティブな心**（感謝・感動・祈りなど）がいい遺伝子を働かせることができるようだ。

②遺伝子の設計図を書いたのは誰

ヒトの遺伝子構造が分かってきたが、どうしてこのような配列にしたのか。これは何かの力（Something Grate）の存在である。これは神や仏に通ずるもの。

③ヒトとして生まれること、命の大切さ

ヒトのＤＮＡが形成されるのは、１億円の宝くじを連続 100 万回当たるという確率になるという。また、ヒトは 99.5%がみんな同じ遺伝子で、0.5%だけが違って、多様性を生んでいる。それだけ命は尊い。

④80 過ぎてもまだまだ伸びる

生きていることを**感謝**し、毎日を**拝む**ような心境になれば、人間はまだまだ伸びる可能性を持っている。

渉外部からのお知らせ

●７～８月の主要行事予定

７月	１０日	脇祖さまご命日	9：00～
	１５日	盂蘭盆会	9：00～
	１９日	かめおか宗教懇話会・講演会	14：00～
８月	１日	布薩の日	9：00～
	４日	開祖さまご命日	9：00～
	１０日	脇祖さまご命日	9：00～
	１５日	戦争犠牲者慰霊・平和祈願の日	9：00～

●メッセージ

先日、関東地方に雹（ひょう）が降った映像を見ました。これも地球温暖化の影響なのでしょうか。新宗連の学習会で、環境問題はまったなしだという話を聞きました。一人ひとりが、これまでの生活を改めないといけないのだということを痛感する出来事です。

◆街中菩薩、回りを明るく

今回初登場です。地域での奉仕活動されている会員を紹介します。今回は京南支部の高岸主任です。

通学路に立って登校児童を見守る

京南支部の主任である高岸詔子さんは５年前から田辺東小学校の児童たちの通学路に立って、登校する生徒たちを見守っています。

見守りを始めた理由は早起きができて、自分自身が健康で過ごせることがうれしいからだとおっしゃっています。また、元気いっぱいの児童たちにふれあうことで、こちらも元気がもらえるからだと言っています。

児童たちには、あいさつがきちんとできる人になって、大人になってもみんなから好かれる人になってほしいと願い、毎朝見守りを続けておられます。